

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 1

- 対応係 本所・地域第2係
- 事例 きのこ生産法人へのGAP導入支援
- 導入目的 安全で安心なきのこを提供しているということの証明を受けたい
- GAP版 ASIAGAP Ver 1 団体認証(旧 JGAP Advance)
- 認証月日 平成30年7月
- 審査機関 インターテックサーティフィケーション
- 支援内容 H29年8月から、管理点と適合基準の読み合わせおよび現地地点検を月1回のペース指導した。
- 参考事項
 - ①複数戸法人であり、生産拠点が各地に散らばっていたため生産方式はほぼ同様であるが、工程に違いが見られている場面もある。以上のことから個別認証ではなく、団体認証で取得している。
 - ②複数個法人であるため、GAPへの取り組み理解を深めること
 - ③帳票類の作成と仕組み作りは、責任者がすべてを担った。現場担当者とのコミュニケーションをしっかりと行ってGAPの取り組みが理解されている。
 - ④トレーサビリティの構築は、各農場からの出荷数量をメールで共有している。

○現場の状況（GAP導入後）



写真1 番号付けされた道具

写真2 清掃終了後揃えられた掃除用具



写真3 作業前の消毒

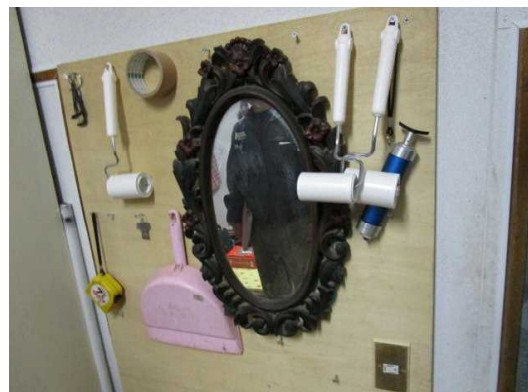


写真4 作業者からの異物混入対策

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 2

- 対応係 本所・地域第2係
- 事例 きのこ生産法人へのGAP導入支援
- 導入目的 安全で安心なきのこを提供しているということの証明を受けたい
- GAP版 ASIAGAP Ver 1 (旧 JGAP Advance)
- 認証月日 平成30年7月
- 審査機関 ACCIS(北海道)
- 支援内容 H29年8月から、管理点と適合基準の読み合わせおよび現地点検を月1回のペースで指導した。また、自己点検の実施支援を行った。
- 参考事項
 - ①法人であることから、GAPへの取り組み理解を経営者や従業員へ伝達し深めること
 - ②帳票類の作成と仕組み作りは、農場の責任者がすべて作成。総会などを通じて従業員へ周知している。
 - ③現場と帳票の整合性は、自ら作成したスマホのアプリと日々の日報で管理している。
 - ④トレーサビリティの構築（印字による追跡システムの）
- 現場の状況（GAP導入後）



写真1 休憩室に掲げた目標

写真2 作業用はさみの整理・整頓



写真3 帳票類の記帳漏れに対する工夫

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 3

- 対応係 広域班
- 事例 イチゴ生産法人へのGAP導入支援
- 導入目的 GAPを導入して、生産物の安全・安心を担保する体制整備を行う
- GAP版 JGAP2016青果物(旧JGAP Basic)
- 認証月日 平成30年10月
- 審査機関 ACCIS(北海道)
- 支援内容 ①GAP取得に関する相談(H30年1月)、②自己点検2回(H30年5月、9月)
- 参考事項 ①農場の組織内部で、それぞれの担当者が、帳票を作成していることからより理解度が向上した。
②ハウス内に農薬保管庫があるが、パーティションで分け、交差汚染の対応を行った。また、既存のロッカーを農薬保管庫とし、鍵の取りつけを行った。
③社内研修で、リスク評価の結果を共有し理解を深める活動を行っている。

○現場の状況（GAP導入後）



写真1 農薬空き容器廃棄場所



写真2 農薬保管庫内の様子

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 4

- 対応係 名寄支所・地域係
- 事例 お米の生産法人へのGAP導入支援
- 導入目的 生産物の安全・安心を担保する体制整備と強化を行う
- GAP版 ASIAGAP Ver2.1
- 認証月日 平成30年11月
- 審査機関 ACCIS(北海道)
- 支援内容 ①GAP取得に関する相談(H30年6月)、②ASIAGAP Ver2.1の管理点と適合基準の読み合わせ3回、③内部監査2回
- 参考事項 ①法人内の中心メンバー全員でGAPの管理点と適合基準の読み合わせを行ったことで、取り組み事項が明確となった。
②お米の乾燥施設で、鳥よけネットを付け、交差汚染を防止した。
- 現場の状況 (GAP導入後)



写真1 作業休憩所に設置されたゴミ箱



写真2 乾燥施設に設置した防鳥ネット

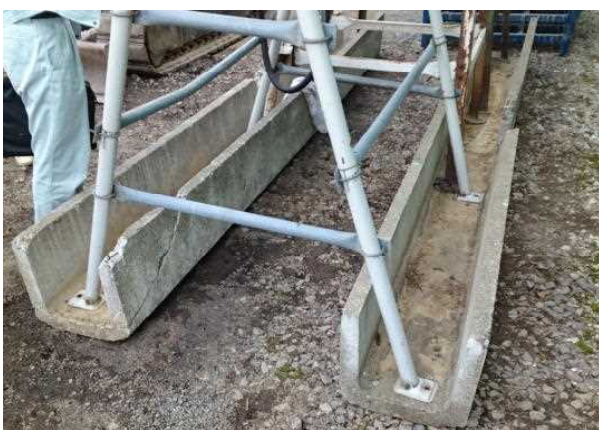


写真3 灯油タンクの転倒防止対策



写真4 パレットに載せている肥料

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 5

- 対応係 本所地域第2係
- 事例 お米の生産法人へのGAP導入支援
- 導入目的 生産物の安全・安心を担保する体制整備とスムーズな経営継承、販売先からの要望
- GAP版 GLOBAL G.A.P.Ver5.1
- 認証月日 平成31年2月
- 審査機関 SGS ジャパン
- 支援内容 平成30年1月からGLOBAL G.A.P.Ver5.1の基準文書読み合わせ（月2回 計4回）、リスク評価の検討支援（2回）
※コンサル会社とともに、自己点検支援
- 参考事項 ①複数戸法人で中心メンバー全員で読み合わせを行うことで、理解を深めることができた。
②メンバー内での伝達・共有によって、スムーズな導入ができた。
③作業開始前に朝礼を実施することで、伝達・共有ができた。
④毎日の日報を書くことで、記録が習慣付いている。

○現場の状況（GAP導入後）



写真1 工夫した農薬保管庫



写真2 危険箇所の掲示による見える化



写真3 整理された油類などの保管

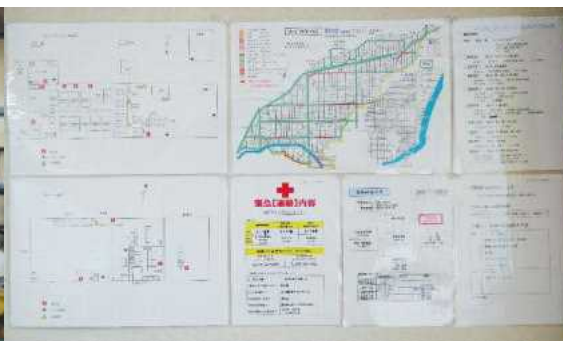


写真4 掲示物

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 6

- 対応係 上川北部支所・地域係
- 事例 生産法人のGAP導入支援（品目：アスパラガス、ブルーベリー、かぼちゃ）
- 導入目的 農場内における作業環境の整備、従業員・パート含め作業の効率化、ミスを防ぐ
- GAP版 JGAP 2016 青果物
- 認証月日 平成 31 年 5 月
- 審査機関 ACCIS
- 支援内容 平成 30 年 3 月から JGAP 2016 青果物の農場用管理点と適合基準の読み合わせ（3 回）、リスク評価の検討支援（2 回）、自己点検支援（2 回）
- 参考事項 従業員とともに読み合わせやリスク検討を行うことで、従業員の意識改善に役立った。
従業員、パートへの作業ルールが説明しやすくなり、徹底された。
施設出入り口にひもを設置したことで鳥の侵入を防ぐことができた。
- 現場の状況（GAP 導入後）



写真1 整理整頓



写真2 そうじ道具



写真3 施設出入り口にひもを設置



写真4 ほ場地図の掲示

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 7

- 対応係 本所・地域第二係
 - 事例 お米の生産法人へのGAP導入支援
 - 導入目的 社員2名に経営参画してほしいことから、栽培管理などの社内体制整備を目指す。
 - GAP版 JGAP 2016 穀物(玄米)
 - 認証月日 認証待ち(9/10 初回審査、9/14 是正報告)
 - 審査機関 ACCIS(北海道)
 - 支援内容 平成30年4月からJGAP 2016 穀物の農場用管理点と適合基準の読み合わせ(6回)、リスク評価の検討支援(6回)、自己点検支援(3回)
 - 参考事項 ①適合表の読み合わせやリスク評価を行ったことで、農場内における不要な物を処分し、整理できた。
②帳票類、掲示物を作成したことで、農場内でのルールや役割分担が明確となった。
③導入に取り組むにあたり、農場管理システム(ヤンマースマートアシスト)での作業記録も活用し、従業員との情報共有が容易となった。
- 現場の状況(GAP導入後)



写真1 雑然とした倉庫内



写真2 不要な物を処分し、整理された倉庫内

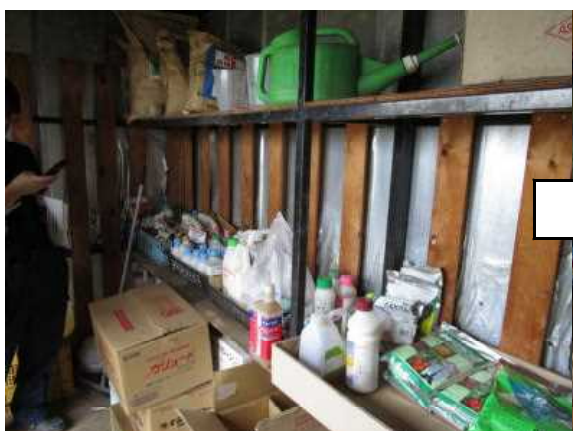


写真3 整理前の農薬保管庫



写真4 作物・種類毎に整理された農薬保管庫

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 8

- 対応係 本所・地域第二係（上川町）
- 事例 農業生産法人へのGAP導入支援
- 導入目的 社内の整備、従業員の意識向上、メロンを直売する際にブランド力を向上させることを目指して導入した。
- GAP版 JGAP 2016 青果物（メロン）
- 認証月日 令和2年5月21日（R2.3/18 初回審査、3/24 是正報告）
- 審査機関 ACCIS（北海道）
- 支援内容 平成30年4月から、JGAP 2016 青果物の農場用管理点と適合基準の読み合わせ（4回）、自己点検（2回）を支援した。
- 参考事項
 - ①帳票類を作成したことで、農薬、肥料等の農業資材の在庫管理が容易となった。
 - ②散布指示書を作成したことで、農薬をいつ、どのほ場で、どのくらい散布したのかがすぐわかるようになり、誤散布・希釈の誤り等のリスクが減った。
 - ③各作業の担当者の責任感が増えた。
- 現場の状況（GAP導入後）



写真1 農薬保管庫の掲示物



写真2 目的別に整理された農薬



写真3 草刈機に番号をつけ、帳票で管理



写真4 種類ごとに整理された道具類

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 9

- 対応係 士別支所 地域第一係
- 事例内容 乳製品加工・販売を行う酪農家への GAP 導入支援
- 導入目的 安全安心な生乳を使用して加工していることを証明し、乳製品（ソフトクリーム、飲むヨーグルト、バター、生乳）に付加価値をつけたい
- GAP版 JGAP 家畜・畜産物 2017
乳用牛・生乳、飼養工程・畜産物取扱い工程・自給飼料生産工程
- 認証月日 2020 年 8 月 26 日
- 審査機関 SMC 株式会社
- 支援内容 2018 年 1 月から管理点と適合基準の読み合わせ(3回)、リスク評価表の作成(3回)、アニマルウェルフェア(飼養管理・家畜運送)のチェックリスト作成(3回)、峯田牧場の管理点と適合基準の作成(7回)、フローダイアグラムの作成(2回)、自己点検(2回)を行った。
- 参考事項 ①管理点と適合基準の読み合わせを行ったことで普段何気なく行っている作業の中にも注意しながら行っている作業があることに気づいた。
②文書と帳票類を整理したことで、農場内でのルールやリスクが高い作業が明確となり、作業の速度だけではなく安全性に留意するようになった。
③ GAP 導入前も日報を書いていたが、様式を工夫し記録しやすい様式を導入した(写真1)。

○現場の状況（GAP 導入後）

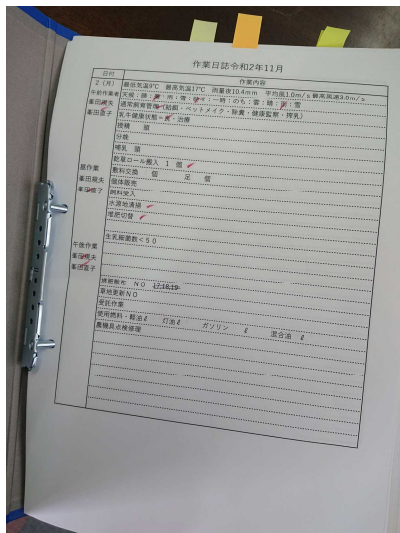


写真1 日々の作業はチェック印を付け特記事項は記入している



写真2 苦情・異常への対応や緊急連絡先などを掲示



写真3 飼養衛生管理基準を考慮し敷設された石灰ズリ

【GAP 導入支援事例（上川農業改良普及センター H30 年～）】

No 10

- 対応係 大雪支所・地域第一係
- 事例 ブロッコリー・きのこ・畑作農事組合法人の GAP 取得
- 導入目的 ブロッコリー、きのこの各取引業者から GAP 取得を要望された
- GAP版 JGAP青果物 2016
(認証農産物：ブロッコリー、しいたけ(生)、ひらたけ(生)、きくらげ(生))
- 認証月日 2021年2月12日(初回審査2020年12月11日)
- 審査機関 ACCIS(北海道)
- 支援内容 令和元年9月から支援を実施。法人構成員への GAP 研修(2回)
1～3月：リスク管理・評価洗い出し
4～8月：管理点・適合基準読み合わせ
9～10月：書類・帳簿点検
11月：自己点検・模擬審査・リスク評価表（初回審査までに計15回）
- 参考事項 ①リスク評価や教育には農場で働く多くの人間が関係する。GAP の考え方や目的について経営全体で共通認識をもつことが重要(研修会には従業員を含め多数参加することが望ましい)
②難解な管理点・適合基準書を平易に説明する、施設構造・配置からの確にリスクを指摘するには指導者の豊富な経験が求められる。地域係担当者で不十分な場合、広域主査の支援を得ることが妥当
③農場担当者の繁忙を年単位で捉えて、審査に向けた現実的スケジュールを示し、進捗状況や確認を小まめに行う。農場の考え方や取り組みを否定せずに、GAP に準拠するよう誘導する姿勢が求められる
- 現場の状況 (GAP 導入後)



写真1 農薬保管場所

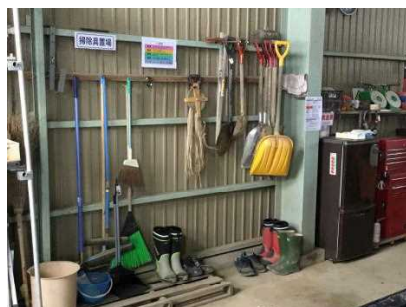


写真2 掃除用具置き場



写真3 掲示物



写真4 GAP研修会(R2.1月)



写真5 模擬審査(R2.11月)